

4/25 西脇くにおが代表世話人をつとめる「生野区介護家族ゆとりの会」が再スタート。遙洋子さん「私の認知症介護」の素晴らしい講演

2012.5.10



前府議会議員西脇くにおの呼びかけで、認知症をはじめとする介護問題を考えていく家族会が活動を再開した。

通称生野区介護家族ゆとりの会は、妻がアルツハイマーになり、介護で苦勞された故南栄さんが、会長をつとめられ活動してこられた。平成5年のまだ身体拘束が当然や、病気の理解のない時代、2ヶ月に一度家族が集まり、言うに言われぬ苦勞を交流してきた。平成18年12月南会長の急逝により一時休止していた会を、今の時代にあった家族会として再開しようと、当時の世話人らが昨年から相談をしてきた。

会は、ティグレ連合会のほか区社会福祉協議、大阪生野ライオンズクラブ、医療法人錦秀会が後援。地域の医療、介護の関係者の多くが賛助会員として協力していただいた。また、当日会場には、生野ライオンズクラブ酒井会長、三秀会出口理事長、荒川診療所荒川幸博先生、平野区の市民後見NPOいのくらネットの山岸代表らが、かけつけていただいた。

記念講演には、7時の開演を待ちきれず2時間前からこられる方も。開演を待たず会場は満員に。タレントの遙洋子さんが、「私の認知症介護～仕事と介護と恋愛と～」をテーマに熱演。自らの父親、母親の介護体験を1人娘として、女性としての立場から、切々と語られた。涙と笑いの中にも、ドキッと考えさせられる密度の濃い時間であった。